新たなる出発にあたり――平成元年度方針

㈶日本ハンドボール協会
専務理事　安藤純光

平成元年度の役員改選は、例年になく各方面からの関心も高く、いくつかの異例な経過を経て行われた。このことは、昭和を終わって新しい《平成元年》のスタートにたいする期待とあわせて日本協会執行部にたいする批判の現われであり、協会運営の責任者としてその責務を充分に果たし得なかった責任を痛感している。はからずもこのたびの改選によって再選され、再び専務理事の大役を仰せつかり、ただただことの大きさに身のひきしまる思いである。前期を深く反省して力足らずではあるが、この大任を果たすべく努力してゆきたい。この際協会運営方針の一端を述べて、全国の関係諸兄のご理解と前期に増してのご協力をお願いしたい。

まず、組織の強化である。そのためには各委員会の充実と活性化である。従来ともすると担当常務理事と常務理事会によってことが進められることがあった。この点をあらため、委員会の活動を強化して課題をまず各委員会において充分に検討し、常務理事会がさらに全体的な立場で検討して実施するといういわば当然の方式を着実に実行してゆきたい。この手続きを踏むことによってより円滑に、より実のりある課題の実施が期待できる。

従来ともすると事業に追われて、いわば泥縄式の運営をせざるを得なかった事態が生じていた。この方式を実施し泥縄式運営を排除するためには、長期的な事業計画の確立と、計画に基づいた担当部門の検討を早期に着手することが不可欠の課題である。とくに国際的な事業を円滑にそしてより実りあるものとするためには長期的な強化計画（遠征計画および招待計画を含む）を確立し、実施することが必要である。当然のことではあるが、事業計画にはそれに伴う資金の確保が必要である。年々増大する国内外の事業に対する財源問題はハンドボール協会の抱える永遠の課題である。この問題の解決は、種々の困難があるが、財源開発プロジェクトを発足して研究し、より活発な活動が可能な財源確保に努力してゆかなければならない。

ソウル・オリンピックでは、参加するオリンピックの域を脱して、少なくとも6位入賞を目指してナショナルチームの強化に力を注いできたが、残念ながら意の如くならずファンおよび関係諸兄の期待を裏切る結果に終わった。この結果についての深い反省の基にバルセロナ対策が立てられなければならない。韓国男女ナショナルチームが地の利があったとはいえ、世界を制する成績をあげたことは、最も近い体型をもつ日本チームにとってもその可能性があるということでもあり、長期的展望に立って着実な強化計画のもとに強化を図ってゆかなければならない。当面8月にはアジア選手権大会を控えているが、目先の課題に捕われることなく、次のあるいはその次の日本のハンドボールを背負って行く人材の発掘と育成が必要である。

この意味ではジュニアから高校生・中学生・小学生にいたる対策がさらに検討されなければならない。とくに中学校・小学校の指導者の育成が必要である。

ソウル・オリンピック以来ハンドボールがマスコミ関係にとりあげられるようになってきている。広報活動の充実はハンドボール競技の普及発展のためには不可欠の課題である。全国各地で開催される日本リーグの競技力の充実と相まって、ハンドボールのファンがさらに増え、競技者が増加することによって頂点はますます高くなり、このことがマスコミの扱いを大きくするという好ましい循環を期待したい。

さて、以上抱える課題の一端を述べたが、いずれを取り上げてみても『言うに易く行うに難し』の感がするが、しかしこれらの課題の解決に積極的に着手してゆかなければならない。前述したように全国の関係者諸兄のより力強いご協力を得て課題の解決に向かって努力してゆきたい。

日本ハンドボール協会 平成元年度事業計画

1. 国内競技会関係

▼全国大会

・第30回実業団選手権大会（男女） 5／9～5／13 埼玉他
・第14回日本リーグ（前期） 6／3～7／2 各地
・第14回日本リーグ（後期） 10／7～11／5 各地
・第2回全国小学生大会 8／1～8／3 京都
・第9回全国クラブ選手権大会 8／4～8／6 大阪
・第40回全日本高校選手権大会 8／5～8／10 高知
・第32回全日本教職員選手権大会 8／9～8／13 北九州
・第18回全国中学校大会 8／17～8／20 山口
・第16回全国高専選手権大会 8／25～8／26 静岡
・第44回国民体育大会 9／16～9／22 北海道
・第32回全日本学生選手権大会 11／14～11／19 宮城
・第41回全日本総合選手権大会 12／21～12／24 東京
・第21回全日本実業団トーナメント 2／　～2／
・平成元年度全国高校選抜大会 3／24～3／28 愛知

▼その他主要大会

・五大都市体育大会 7／7～7／9 大阪
・国体 中国ブロック大会 7／21～7／23 島根
・国体 東北ブロック大会 8／18～8／20 宮城
・国体 近畿ブロック大会 8／18～8／20 奈良
・国体 関東ブロック大会 8／18～8／20 栃木
・国体北信越ブロック大会 8／19～8／20 石川
・国体 東海ブロック大会 8／19～8／20 静岡
・国体 四国ブロック大会 8／19～8／20 徳島
・国体 九州ブロック大会 8／18～8／20 福岡

2. 強化・国際交流関係

▼国際大会

・男子ジュニア世界選手権大会アジア予選 3／26～3／28 韓国
・女子ジュニア世界選手権大会アジア予選 5／19～5／22 台中
・男子、女子アジア選手権大会（兼選手権大会アジア予選） 8／20～8／31 北京
・女子ジュニア世界選手権大会 9／22～10／1 ナイジェリア
・女子B世界選手権大会 11／21～12／15 デンマーク
・男子A世界選手権大会 2／28～3／10 チェコスロバキア

▼国際親善試合

・国際スポーツフェア'89（男子ナショナル） 5／2 東京
・佐川急便国際試合（男子ナショナル） 5／4・6・7 滋賀、名古屋横浜
・日韓交流競技会（高校生） 8／23～8／26 石川
・イタリア（テラモ男子）招待国際大会 9／10～9／17
・IOCプレジデントカップ（女子ナショナル） 9／12～9／17 韓国
・女子ポーラカップ（女子ナショナル） 11／8～11／12 ノルウェー
IHFトレーナーシンポジウム 5／14～5／20 ポルトガル
IOCオリンピックソリダリティー 5／29～6／4 東京

▼国内強化合宿

男・女ナショナル強化合宿 男・女共各年間7回実施予定
男・女ジュニア 強化合宿 男・女共各年間7回実施予定

3. 技術関係（トレーニングドクター、スポーツドクター）

・ナショナル、ジュニアナショナル選手の体力測定
選手個々人の体力の推移を把握し、競技力向上につなげる。
・ゲーム分析　ソウルオリンピック出場チームのゲーム分析を行い、日本チームの強化につなげる。
・体力、技術研究
全国小学生大会出場選手の体力、技術について調査し、選手のその後の推移について調査分析を行い今後の指導育成につなげる。
・ナショナル選手の健康管理システムの確立
内科学的健康診断の実施
個人別カルテの作成　他

4. 普及・指導関係

国の社会体育指導者制度の導入による新公認スポーツ指導者制度が施行され、地域スポーツ指導者の育成と認定はすでに各地で展開されていくので、これらへの指導と、当面の急務として、競技力向上指導者の指導者認定要項の確立と養成講習会の早期実施を検討していく。

低年齢層への普及活動については、小学生チームづくりと地域大会の実施が漸く軌道にのりだしており、全国大会の開催によりさらに一歩前進を期待して、第2回全国小学生大会を開催する。

小学生大会はアジア諸国でも活発に行われており、韓国から日本との交流について申し出をうけており、検討していく。

・第2回全国小学生大会の開催
・小学生指導者養成講座の開催
・公認指導者養成講習会の開催

5. 審判関係

・A・B級審判審査の実施
A級27名、B級78名の受験予定者を対象に、A級は東京で、B級は全国四ヵ所にて実施する。
B級審査会　西地区　5／19～5／21　岡山
東地区　6／30～7／1　群馬
中地区　6／上　京都
北地区　6／23～6／24　青森
A級審査会　6／中　東京
・公認審判員中央研修会
各県審判長及び審判員を対象に、合同会議の報告、次年度事業の確認事項等の研修会を各ブロック毎に2月～3月にかけて実施する。
研修会にはルール研究委員が出席し資料の収集に当たる。
・公認審判員地方研修会
全国各地に地方研修会を実施し、審判員の指導と評価を行う。
高校総体　8／5～8／9　高知
教職員大会　8／9～8／13　北九州
・JHAレフェリーコース
将来、レフェリーを志望する年齢25歳までの若人を対象に、レフェリーの知識と実技指導を行い、テスト結果を審査してB級以下に認定し、レフェリーの育成をはかる。
JHAレフェリーコース（前期）
8／26～8／28　東京
（後期）
3／21～3／23　東京
・海外研修
チーフレフェリーシンポジウム
（2名参加予定）　5／9～5／13　ベルギー
レフェリークリニックコース
（1名参加予定）　未定　中国
・審判審査委員会　1／9　東京
・審判合同委員会　1／20～1／21　東京
・国際審判員研究会
・ルール研究委員会

6. 広報関係

機関誌の内容充実化並びに報道機関との連携の強化をはかり、広く広報活動を展開する。
・機関誌の発行（毎月上旬　年11回）
・イヤーブック（機関誌増刊号）の発行
・体協記者クラブとの懇談会
・各種大会への取材活動
・編集委員会の開催

7. 日本リーグ関係

日本リーグは平常どおり前期、後期の2回総当たり戦を実施する。各チームから要望の強いJHAカップ（教育リーグ）の開催についても実施の方向で検討していく。また、3年ぶりにオールスター戦を実施する。

リーグ活性化について積極的に取り組み、常任委員会、運営委員会並びに各地区報道機関及び各チーム監督との懇談会を定期的に開催し、活性化を推し進める。

・第14回日本リーグ（前期）
6／3～7／2　全国各地
・第14回日本リーグ（後期）
10／7～11／5　全国各地
・JHAカップ（予定）
8／下旬
・第6回オールスター戦
1／中旬　東京または大阪

第30回全日本実業団選手権大会

男子 湧永製薬 / 女子 大崎電気 が優勝を飾る

第30回全日本実業団選手権大会は，５月９日から13日まで，男女各12チームが参加して行われた。予選リーグは３ブロックに分かれ，シャトレーゼ体育館，岩井総合体育館，日立栃木体育館の３会場で行われ，後半３日間の順位決定リーグは戸田市スポーツセンターで行われた。

男女とも予選リーグ，順位決定リーグとも各チームとも力が接近してきて激しい戦いをくり広げたが，男子は湧永製薬が２年連続８回目，女子は大崎電気が３年連続６回目の優勝を飾った。

男子

予選リーグA組

本田技研 21（11－9，10－11）20 三陽商会
湧永製薬 29（15－7，14－6）13 竹芝精巧
湧永製薬 32（17－10，15－3）13 本田技研
三陽商会 18（7－10，11－7）17 竹芝精巧
竹芝精巧 21（12－8，11－10）18 本田技研
湧永製薬 19（11－7，8－6）13 三陽商会

得	〔湧永〕		〔竹芝〕	得
0	徐	GK	小幡	0
0	多田		大屋	0
3	酒巻	FP	中間	1
9	河原		三幸	1
7	玉村		桐木	2
2	堀田		馬場	0
0	新井	審・	三本	1
0	中川	石川	今村	5
3	長沢	松本	植村	2
1	荷川取		野崎	0
2	奥田		吉川	1
2	楢原		一ノ瀬	0
29	(0)	PT	(1)	13

得	〔熊本〕		〔三陽〕	得
0	中尾	GK	宇田川	0
0	宮本		吉田	0
0	矢野	FP	浜川	3
0	荒田		飯島	6
4	三代		田中	1
3	松村		大坪	0
1	田中浩	審・	砂川	3
0	山口	本田	山口	3
7	川崎	鶴留	安藤	0
0	村田		浜田	4
6	田中孝		河村	0
0	堀内		吉原	0
21	(0)	PT	(2)	20

得	〔竹芝〕		〔熊本〕	得
0	小幡	GK	中尾	0
0	大屋		宮本	0
5	中間	FP	矢野	0
0	三幸		荒田	0
3	桐木		三代	0
3	馬場		松村	3
1	三本	審・	田中浩	1
8	今村	三枝	山口	2
0	植村	水越	川崎	11
0	野崎		村田	0
1	吉川		田中孝	3
0	一ノ瀬		堀内	0
21	(2)	PT	(2)	20

得	〔三陽〕		〔竹芝〕	得
0	宇田川	GK	小幡	0
0	高橋		大屋	0
2	浜川	FP	中間	4
2	飯島		三幸	3
0	田口		桐木	5
0	大坪		馬場	0
3	砂川	審・	三本	0
5	山口	鶴留	今村	3
4	浜田	本田	植村	0
1	安藤		野崎	0
1	河村		吉川	1
0	吉原		森口	0
18	(0)	PT	(0)	17

得	〔湧永〕		〔熊本〕	得
0	徐	GK	中尾	0
0	多田		宮本	0
3	酒巻	FP	矢野	1
2	河原		荒田	0
8	玉村		三代	2
4	堀田		松村	3
0	新井	審・	田中浩	1
5	中川	本田	山口	0
4	長沢	鶴留	川崎	4
4	荷川取		村田	0
2	奥田		田中孝	2
0	楢原		堀内	0
32	(1)	PT	(1)	13

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	徐	GK	宇田川	0
0	井藤		高橋	0
5	酒巻	FP	浜川	1
1	河原		飯島	2
6	玉村		田口	0
2	堀田		大坪	0
0	新井	審・	砂川	3
2	中川	水越	山口	3
2	長沢	上小沢	浜田	4
0	荷川取		安藤	0
0	奥田		河村	0
1	楢原		吉原	0
19	(4)	PT	(2)	13

予選リーグB組

大崎電気 31（11－11，20－7）18 日本電装

得	〔鈴鹿〕		〔車体〕	得
0	高木	GK	宮田	0
0	橋本		村林	0
6	真砂	FP	吉続	3
2	福村		君島	2
5	立木		岡島	1
3	内藤		河合	1
5	粟屋	審・	藤長	4
2	田口	内記	平川	0
1	梅基	大鐘	久保山	0
0	山本		長野	0
6	山村		蓑田	2
3	平子		井上	0
33	(2)	PT	(0)	13

得	〔大崎〕		〔電装〕	得
0	渡辺	GK	森	0
0	矢内		高橋	0
8	松岡	FP	杉村	6
4	大和田		橋本	2
2	首藤		西木戸	1
1	中山		久本	4
2	山本	審・	岸田	1
0	甲斐	鈴木	井上	1
2	菅田	高野	岡崎	1
5	相馬		樋口	2
7	宮下		近藤	0
0	魚住		柴田	0
31	(0)	PT	(1)	18

本田技研鈴鹿	33	18-5 / 15-8	13	トヨタ車体
大崎電気	29	13-6 / 16-8	14	トヨタ車体
本田技研鈴鹿	34	12-5 / 22-8	13	日本電装

得	〔大崎〕		〔車体〕	得
0	渡辺	GK	宮田	0
0	矢内	GK	村林	0
6	大和田	FP	吉続	3
6	武田	FP	君島	5
5	首藤	FP	福田	0
1	中山	FP	岡島	0
0	山本	FP	河合	1
3	甲斐	FP	藤長	1
2	菅田	FP	平川	0
3	相馬	FP	久保山	0
0	宮下	FP	長野	4
3	魚住	FP	蓑田	0
29	(0)	PT	(0)	14

〔審・福田 雨谷〕

得	〔鈴鹿〕		〔電装〕	得
0	高木	GK	森	0
0	橋本	GK	高橋	0
13	真砂	FP	杉村	1
3	福島	FP	橋本	2
0	福村	FP	西木戸	2
1	立木	FP	藤崎	0
2	内藤	FP	久本	1
4	粟屋	FP	岸田	1
1	小池	FP	井上	1
0	田口	FP	岡崎	1
6	山村	FP	樋口	4
4	平子	FP	近藤	1
34	(2)	PT	(1)	13

〔審・福田 雨谷〕

得	〔車体〕		〔電装〕	得
0	宮田	GK	森	0
0	村林	GK	高橋	0
2	吉続	FP	杉村	2
5	君島	FP	橋本	2
0	福田	FP	西木戸	3
0	岡島	FP	久本	2
5	河合	FP	岸田	2
3	藤長	FP	井上	0
0	平川	FP	岡崎	2
0	久保山	FP	樋口	3
6	長野	FP	近藤	0
1	蓑田	FP	柴田	0
22	(1)	PT	(2)	16

〔審・鈴木 高野〕

トヨタ車体	22	13-6 / 9-10	16	日本電装
本田技研鈴鹿	20	10-8 / 10-11	19	大崎電気

得	〔鈴鹿〕		〔大崎〕	得
0	高木	GK	渡辺	0
0	橋本	GK	矢内	0
0	真砂	FP	松岡	3
0	福村	FP	大和田	2
7	立木	FP	首藤	4
3	尾上	FP	中田	0
3	内藤	FP	山本	5
4	粟屋	FP	甲斐	0
0	田口	FP	菅田	1
0	梅基	FP	相馬	1
0	山本	FP	宮下	3
3	山村	FP	魚住	0
20	(3)	PT	(3)	19

〔審・雨谷 福田〕

予選リーグC組

大同特殊鋼	25	11-10 / 14-7	17	トヨタ自動車
日新製鋼	24	12-8 / 12-10	18	本田爽風会
日新製鋼	27	19-7 / 8-12	19	トヨタ自動車
大同特殊鋼	19	11-5 / 8-7	12	本田爽風会

得	〔大同〕		〔自動車〕	得
0	上村	GK	西井	0
0	秋吉	GK	富森	0
10	田中	FP	香井	3
0	内藤	FP	川田	8
3	高村	FP	酒井	0
0	朝生	FP	堀江	2
0	河井	FP	中西	1
2	植木	FP	田村	0
4	横浜	FP	平野	0
3	佐藤	FP	松尾	0
1	畑	FP	杉元	3
2	名取	FP	森	0
25	(3)	PT	(5)	17

〔審・羽田 吉田〕

トヨタ自動車	26	13-8 / 13-10	18	本田爽風会
大同特殊鋼	19	9-8 / 10-8	16	日新製鋼

得	〔日新〕		〔爽風会〕	得
0	谷	GK	内山	0
0	宇田川	GK	大畑	0
2	武田	FP	平山	6
3	西山	FP	平井	0
2	高木	FP	門口	0
2	甲斐	FP	関根	5
1	日野	FP	井方	1
3	堀田	FP	宮本	0
2	藤本	FP	木下	1
0	池田	FP	金沢	0
5	野中	FP	弥吉	1
4	木村	FP	東	4
24	(1)	PT	(0)	18

〔審・中山 大出〕

得	〔日新〕		〔自動車〕	得
0	谷	GK	西井	0
0	宇田川	GK	富森	0
2	武田	FP	香井	2
3	西山	FP	川田	7
1	高木	FP	酒井	2
2	甲斐	FP	堀江	5
2	日野	FP	中西	0
6	堀田	FP	田村	0
5	藤本	FP	松尾	0
0	池田	FP	杉元	3
2	野中	FP	森	0
4	木村	FP	平野	0
27	(1)	PT	(1)	19

〔審・羽田 吉田〕

得	〔大同〕		〔爽風会〕	得
0	上村	GK	内山	0
0	秋吉	GK	大畑	0
6	田中	FP	平山	5
0	内藤	FP	平井	0
2	高村	FP	関根	3
0	朝生	FP	井方	2
0	河井	FP	宮本玲	0
1	植木	FP	宮本輝	0
3	横浜	FP	木下	0
1	佐藤	FP	金沢	0
3	畑	FP	弥吉	1
3	名取	FP	東	1
19	(2)	PT	(1)	12

〔審・羽田 吉田〕

得	〔自動車〕		〔爽風会〕	得
0	西井	GK	内山	0
0	富森	GK	大畑	0
6	香井	FP	平山	11
8	川田	FP	平井	0
2	酒井	FP	関根	2
0	堀江	FP	井方	0
0	中田	FP	宮本	2
0	田村	FP	木下	0
4	松尾	FP	金沢	0
5	杉元	FP	弥吉	1
1	森	FP	東	2
0	平野	FP	門口	0
26	(3)	PT	(5)	18

〔審・羽田 吉田〕

得	〔大同〕		〔日新〕	得
0	上村	GK	森田	0
0	秋吉	GK	宇田川	0
1	田中	FP	森	0
0	内藤	FP	武田	4
5	高村	FP	西山	5
0	朝生	FP	高木	1
0	河井	FP	甲斐	2
3	植木	FP	日野	0
2	横浜	FP	堀田	2
5	佐藤	FP	藤本	1
0	畑	FP	野中	1
3	名取	FP	木村	0
19	(1)	PT	(2)	16

〔審・中山 大出〕

10～12位決定リーグ

本田爽風会 32 (16-14, 16-15) 29 日本電装

〔戦評〕立ち上がりから本田・平山、日本電装・久本のシュートがおもしろいように決まり、一進一退の攻防を展開したが、本田爽風会が1点をリードして前半を終了。

後半開始早々、速攻からの得点を連取した爽風会がGK大畑の好守もあり、一時5点差とする。日本電装もポストをからめた攻撃で必死に追い上げたが、多彩な攻撃力を見せた爽風会が押し切った。

得	〔電装〕		〔爽風会〕	得
0	森	GK	内山	0
0	高橋	GK	大畑	0
7	杉村	FP	平山	14
2	橋本	FP	平井	0
3	西木戸	FP	関口	0
8	久本	FP	関根	3
4	岸田	FP	井方	2
0	井上	FP	宮本玲	1
2	岡崎	FP	木下	4
1	樋口	FP	金沢	0
1	近藤	FP	弥吉	6
1	柴田	FP	東	2
29	(1)	PT	(1)	32

（審・岡本・清水）

本田技研熊本 28 〔15－8・13－8〕 16 本田爽風会

〔戦評〕熊本は松村、川崎のロングシュートで10分までに5－2とリードを奪い、主導権を握りかけたが、爽風会はスタートの良い速攻と平山のロングシュートで追いすがり、GKの好守とも相まって目の離せない展開となった。

後半開始早々、熊本は山口のポストシュートで連続得点してペースをつかみ、速攻やロングで着々と加点していった。爽風会は速攻、セットプレーとも決してひけをとらないが、相手GKの好守に阻まれチャンスをつかみきれなかった。

得	〔爽風会〕		〔熊本〕	得
0	内山	GK	中尾	0
0	大畑	GK	宮本	0
8	平山	FP	矢野	0
0	平井	FP	荒田	0
1	関根	FP	三代	0
1	井方	FP	松村	2
1	宮本玲	FP	田中浩	2
0	宮本輝	FP	山口	7
3	木下	FP	川崎	12
0	金沢	FP	村田	1
2	弥吉	FP	田中孝	3
0	東	FP	堀内	1
16	(0)	PT	(3)	28

（審・阿部・牧田）

退場者は多かったが、両チームとも最後まできびきびとプレーし、観衆をひきつけた好ゲームであった。

本田技研熊本 29 〔14－12・15－10〕 22 日本電装

〔戦評〕両チームともスタートでミスが出て互いに相手のミスから得点。本田技研熊本は、日本電装のディフェンスの甘さをつき5点のリードを保つ。粘る日本電装は23分、10－10の同点として盛り上がるが、本田は山崎などの速攻で15－10と再び5点差をつけて前半を終了。

後半、日本電装は攻撃では好展開を見せるが、ディフェンスの甘さが出て点差が縮まらない。逆に本田は松村、川崎などの速攻で着実に加点、粘る日本電装をふり切った。

得	〔電装〕		〔熊本〕	得
0	福山	GK	中尾	0
0	高橋	GK	宮本	0
0	杉村	FP	矢野	1
1	橋本	FP	荒田	0
0	西木戸	FP	三代	2
7	久本	FP	松村	8
2	岸田	FP	田中浩	0
1	井上	FP	山口	6
3	岡崎	FP	川崎	9
3	樋口	FP	村田	0
1	近藤	FP	田中孝	3
4	柴田	FP	堀内	0
22	(1)	PT	(1)	29

（審・伊藤・田中）

7～9位決定リーグ

トヨタ自動車 33 〔19－12・14－15〕 27 トヨタ車体

〔戦評〕前半、両チームとも固さが見られ、攻撃のリズムがつかめなかった。先手はトヨタ車体がとったが、トヨタ自動車も杉元のロングシュートで返し、以後一進一退の攻防が続き、15－14とトヨタ車体が1点をリードして前半を終了する。

後半、リズムをつかんだトヨタ自動車が10分からたて続けに4点連取、17には27－20とリードする。トヨタ車体も必死に反撃したが及ばなかった。

得	〔車体〕		〔自動車〕	得
0	宮田	GK	西井	0
0	村林	GK	富森	0
5	吉続	FP	香井	6
8	君島	FP	川田	7
0	岡島	FP	酒井	0
5	河合	FP	堀江	4
4	藤長	FP	中西	2
0	平川	FP	田村	3
0	久保山	FP	松尾	3
4	長野	FP	杉元	6
1	蓑田	FP	森	0
0	井上	FP	平野	2
27	(2)	PT	(1)	33

（審・土屋・長瀬）

トヨタ自動車 26 〔15－12・11－13〕 25 竹芝精巧

〔戦評〕一進一退の展開の中で、竹芝の早いパスまわしからのポストプレーが続いた。トヨタ自動車の細かいミスが目立ち、13－11と竹芝が2点をリードして前半を終了した。

後半に入ってからは、10分過ぎにトヨタ自動車が3連続ゴールを決め、逆にリードを奪った。トヨタ自動車GK大屋の好守があり、結局1点差でトヨタが逃げ切った。

得	〔竹芝〕		〔自動車〕	得
0	小幡	GK	西井	0
0	大屋	GK	富森	0
7	中間	FP	香井	5
1	三幸	FP	川田	8
6	桐木	FP	酒井	3
3	馬場	FP	堀江	4
0	三本	FP	中西	1
4	今村	FP	田村	0
1	植村	FP	松尾	1
1	野崎	FP	杉元	3
2	吉川	FP	森	0
0	一ノ瀬	FP	平野	1
25	(3)	PT	(0)	26

（審・田村・斉藤）

トヨタ車体 27 〔11－13・16－11〕 24 竹芝精巧

〔戦評〕立ち上がり12分まではトヨタ車体・河合のロングシュートが連続して決まり、一方竹芝精巧もサイド、ポストで取り返す一進一退の展開となったが、トヨタ車体の速攻が連続して決まり、4点をリードして折り返した。

後半、竹芝精巧は中間の連続得点とトヨタ車体の速攻のパスワークの乱れから一時逆転に成功したが、20分過ぎからはシュートミスが目立ち、再びトヨタ車体が速攻で逆転、そのままリードを保って逃げ切った。

得	〔竹芝〕		〔車体〕	得
0	小幡	GK	宮田	0
0	大屋	GK	村林	0
7	中間	FP	吉続	2
2	三幸	FP	君島	5
3	桐木	FP	福田	0
3	馬場	FP	岡島	0
0	三本	FP	河合	6
6	今村	FP	藤長	5
2	植村	FP	平川	1
0	野崎	FP	久保山	0
2	吉川	FP	長野	8
0	森口	FP	蓑田	0
25	(0)	PT	(1)	27

（審・山中・久保）

4～6位決定リーグ

大崎電気 29 〔17―9／12―18〕 27 日新製鋼

〔戦評〕前半、両チームとも幸先の良いスタートを切る。その後、日新の荒さの目立つディフェンスに対し、大崎はスピードのあるカットインプレーなどで得点を重ねた。一方日新は、ポストプレーを中心に攻撃をしかけたが、8点差をつけられて前半を終了する。

後半に入り、大崎は若手を中心にしたメンバーで臨んだが、スピードが出てきた日新の攻撃により徐々に追い上げられ、27分過ぎには1点差まで詰め寄られたが、終盤ノーマークシュートをGK矢内が好キーピングで防ぎ、辛くも2点差で逃げ切った。

〔日新〕		得
GK	森田	0
	谷	0
FP	武田	7
	西山	1
	高木	1
	甲斐	3
	日野	0
	堀田	5
	藤本	5
	池田	0
	野中	3
	木村	2
PT	(2)	27

（審・岡本、島田）

〔大崎〕		得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	2
	大和田	5
	武田	0
	首藤	5
	中田	3
	山本	4
	甲斐	1
	菅田	3
	相馬	1
	宮下	5
PT	(0)	29

日新製鋼 24 〔12―6／12―12〕 18 三陽商会

〔戦評〕ゆっくりしたゲーム展開で試合は進み、三陽の1―5ディフェンスに苦しみながらも藤本、木村のミドルシュートなどで着実に加点、GKの好守もあって12―6と日新が大きくリードして前半を終了。

後半に入り、日新のシュートミス、退場の間に三陽が速攻で3点差まで詰め、さらに三陽・浜田のロングで16―17と1点差に迫る。日新も武田のミドルで突き放すが、三陽も速攻で入れ返す白熱したゲームとなったが、残り5分、三陽ディフェンスの足が止まったところを日新がすかさず突き放し、6点差をつけて勝つ。

〔三陽〕		得
GK	宇田川	0
	吉田	0
FP	浜川	4
	飯島	0
	田口	2
	大坪	0
	砂川	2
	山口	3
	浜田	5
	安藤	0
	河村	0
	吉原	2
PT	(3)	18

（審・牧田、阿部）

〔日新〕		得
GK	谷	0
	宇田川	0
FP	武田	6
	西山	1
	高木	0
	甲斐	3
	日野	0
	堀田	4
	藤本	5
	野中	0
	木村	5
	池田	0
PT	(1)	24

大崎電気 25 〔13―12／12―7〕 19 三陽商会

〔戦評〕開始5分、3―0とリードを奪った大崎ペースで試合が進むと予想されたが、7分過ぎ頃より三陽もポストシュートやルーズボールを速攻につないで得点を重ね、一進一退の試合展開となり、前半を13―12と大崎が1点をリードして折り返す。

後半に入り、三陽の好ディフェンスに大崎も攻めあぐねたが、20分過ぎから大崎がPTを決め、速攻などで加点し、攻め手に欠ける三陽を結局25―19でふり切り、勝利を手中にした。

〔三陽〕		得
GK	宇田川	0
	高橋	0
FP	浜川	1
	飯島	0
	田口	0
	大坪	0
	砂川	4
	山口	10
	浜田	3
	安藤	0
	河村	1
	吉原	0
PT	(0)	19

（審・浅井、山本）

〔大崎〕		得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	2
	大和田	3
	首藤	4
	中田	2
	山本	6
	甲斐	2
	菅田	0
	相馬	0
	宮下	6
	魚住	0
PT	(3)	25

決勝リーグ

本田技研鈴鹿 21 〔7―12／14―7〕 19 大同特殊鋼

〔戦評〕両チーム厳しい攻防を見せ、特に大同GK秋吉の随所にわたる好守で本田はペースをつかめず前半を大同の5点リードで終了。

後半、一進一退のテンポある攻防であったが、本田得意の速攻がなかば頃から冴え、残り3分で同点に追いつく。その後、山村のサイドシュートで引き離し、逆に2点差をつけて本田が勝利を握った。

〔大同〕		得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	5
	内藤	0
	高村	3
	朝生	2
	河井	0
	植木	5
	横浜	1
	佐藤	0
	畑	0
	名取	3
PT	(1)	19

（審・不明）

〔鈴鹿〕		得
GK	高木	0
	橋本	0
FP	真砂	3
	福村	0
	立木	6
	尾上	0
	内藤	5
	栗屋	2
	田口	0
	梅基	0
	山本	0
	山村	5
PT	(4)	21

湧永製薬 26 〔13―12／13―11〕 23 大同特殊鋼

〔戦評〕湧永、大同ともにスピードあるボールまわしから湧永は玉村を中心に大同はずらしから田中のサイドシュートで得点を重ね、一進一退の攻防をくり返し、13―12と湧永の1点リードで前半終了。

後半、湧永は守りを大同・高村のマンツーマンに切り替え、それによって攻撃のリズムを崩された大同のミスにつけ込み、20分過ぎには26―20とリードを広げた。

その後、大同も湧永のミスにつけ込み、速攻を軸に攻撃をしかけるが、後半から出場の湧永GK井藤に再三のゴールチャンスを阻まれ、26―23で湧永が逃げ切った。

〔大同〕		得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	10
	内藤	0
	高村	5
	朝生	1
	河井	0
	植木	1
	横浜	4
	畑	1
	名取	1
PT	(3)	23

（審・田中、斉藤）

〔湧永〕		得
GK	徐	0
	井藤	0
FP	酒巻	6
	河原	3
	玉村	10
	堀田	4
	新井	0
	中川	1
	長沢	2
	鎌塚	0
	奥田	0
	楢原	0
PT	(7)	26

湧永製薬 20 〔10―8／10―10〕 18 本田技研鈴鹿

〔戦評〕立ち上がり内藤のミドルで本田が先制。しかし12分、その内藤が退場の間に湧永が追いつき、その後湧永・坂巻、本田・立木らのシュートで一進一退、10―8と湧永の2点リードで折り返す。

後半も互いに点を取り合ったが、中盤、内藤の2回目の退場の間にリードを広げた湧永が、終盤の本田の追撃をふり切った。

〔鈴鹿〕		得
GK	高木	0
	橋本	0
FP	真砂	1
	福村	0
	立木	1
	尾上	0
	内藤	4
	栗屋	3
	田口	5
	梅基	0
	山本	0
	山村	4
PT	(3)	18

（審・宮沢、小林）

〔湧永〕		得
GK	徐	0
	井藤	0
FP	酒巻	5
	河原	1
	玉村	7
	堀田	0
	新井	0
	中川	1
	長沢	0
	鎌塚	0
	奥田	2
	楢原	4
PT	(2)	20

〔順位〕

①湧永製薬
②本田技研鈴鹿
③大同特殊鋼
④大崎電気
⑤日新製鋼
⑥三陽商会
⑦トヨタ自動車
⑧トヨタ車体
⑨竹芝精巧
⑩本田技研熊本
⑪本田爽風会
⑫日本電装

〔表彰者〕

▽最優秀監督賞
服部秀人（湧永製薬）
▽最優秀選手賞
玉村健次（湧永製薬）

▽最優秀新人賞
該当者なし
▽ベストセブン
GK　橋本行弘（本田技研鈴鹿）
FP　立木浩二（本田技研鈴鹿）
田口　隆（本田技研鈴鹿）
山村秀明（本田技研鈴鹿）
楢原隆雄（湧永製薬）
高村誠一（大同特殊鋼）
山本興道（大崎電気）

女子

予選リーグA組

北国銀行 19（10−12, 9−6）18 ブラザー工業
シャトレーゼ 23（14−7, 9−9）16 ジャスコ

得	〔北国〕		〔ブ工〕	得
0	木戸	GK	岡本	0
0	岩井			
1	林	FP	荒木	9
0	丹後		末永	3
2	松田		小栗	0
3	北川	（審・千野、市瀬）	道上	3
0	矢野		松尾	1
2	北川		進藤	1
5	金		野田	1
3	森		甲斐	0
3	呉		高木	0
0	谷本		田中	0
19	(1)	PT	(3)	18

得	〔シャト〕		〔ジャ〕	得
0	丸山	GK	小深田	0
0	工藤		吉田	0
2	小松	FP	佐々木	2
8	島崎		池田	5
3	海道		石田	6
0	松沢	（審・松本、石川）	川井	2
0	黒沼		常石	0
4	小林		今井	0
2	小野寺		東出	1
2	生方		稲田	0
2	山岸		徳永	0
2	小俣		勝島	0
23	(1)	PT	(1)	26

シャトレーゼ 25（13−6, 12−14）20 北国銀行
ブラザー工業 12（3−6, 9−5）11 ジャスコ
北国銀行 23（11−7, 12−7）14 ジャスコ
シャトレーゼ 12（6−7, 6−5）12 ブラザー工業

得	〔シャト〕		〔北国〕	得
0	丸山	GK	木戸	0
0	千葉		岩井	0
7	島崎	FP	林	1
7	海道		丹後	0
4	松沢		松田	2
0	小林	（審・本田、鶴留）	北川真	5
1	小野寺		矢野	0
1	江原		北川静	2
2	生方		金	8
1	山岸		森	0
2	小俣		呉	2
0	宇宿		谷本	0
25	(1)	PT	(2)	20

得	〔ブ工〕		〔ジャ〕	得
0	岡本	GK	小深田	0
			吉田	0
5	荒木	FP	佐々木	1
2	末永		池田	1
0	小栗		石田	2
0	道上	（審・松本、石川）	川井	0
1	松尾		常石	2
2	進藤		今井	2
2	野田		東出	2
0	甲斐		稲田	1
0	高木		徳永	0
0	田中		勝島	0
12	(2)	PT	(0)	11

得	〔北国〕		〔ジャ〕	得
0	木戸	GK	小深田	0
0	岩井		吉田	0
2	林	FP	佐々木	2
1	丹後		池田	4
5	松田		石田	0
6	北川真	（審・本田、鶴留）	川井	4
0	矢野		常石	1
1	北川静		今井	0
6	金		東出	2
0	森		稲田	1
1	呉		徳永	0
1	谷本		勝島	0
23	(2)	PT	(2)	14

得	〔シャト〕		〔ブ工〕	得
0	丸山	GK	岡本	0
0	工藤			
0	小松	FP	荒木	5
0	嶋崎		末永	1
2	海道		小栗	0
2	松沢	（審・松本、石川）	道上	4
0	小林		松尾	1
3	小野寺		進藤	0
1	生方		野田	0
1	山岸		甲斐	1
0	野沢		高木	0
3	小俣		田中	0
12	(2)	PT	(4)	12

予選リーグB組

日本ビクター 16（10−3, 6−5）8 ソニー国分

得	〔日ビ〕		〔ソニー〕	得
0	小口	GK	阿多石	0
0	浜口		古賀	0
4	武藤	FP	藤元	5
6	長田		野角	0
1	枝川		平山	0
1	下條	（審・福田、雨谷）	白石	0
0	平松		楠本	0
1	太田		林	0
0	工藤		東郷	1
2	永岡		山口	0
1	山之内		大住	2
0	中村		永尾	0
16	(2)	PT	(3)	8

立石電機山鹿 19（8−7, 11−10）17 大和銀行
日本ビクター 25（12−10, 13−11）21 大和銀行
大和銀行 21（11−4, 10−6）10 ソニー国分

得	〔立石〕		〔大和〕	得
0	岡本	GK	増見	0
0	川島		岡田	0
1	横田	FP	丸田	1
0	山内		鈴木	0
3	中山		袰川	1
5	武津	（審・鈴木、高野）	上村	3
0	毛利		小池	5
3	野嶋		藤本	3
0	橋本		高尾	3
1	斉藤		木瀬	0
5	比嘉		松田	1
1	石村		又吉	0
19	(3)	PT	(4)	17

得	〔日ビ〕		〔大和〕	得
0	小口	GK	増見	0
			簗田	0
4	武藤	FP	丸田	3
9	長田		鈴木	0
5	枝川		袰川	6
3	下條	（審・内記、大鐘）	上村	2
0	平松		小池	5
2	太田		藤本	3
0	工藤		高尾	1
0	永岡		木瀬	0
0	山之内		松田	1
2	中村		又吉	0
25	(4)	PT	(0)	21

得	〔大和〕		〔ソニー〕	得
0	増見	GK	阿多石	0
0	岡田		古賀	0
7	丸田	FP	藤元	3
0	鈴木		野角	0
4	袰川		平山	2
0	上村	（審・鈴木、高野）	白石	0
3	小池		楠本	0
3	藤本		林	0
2	高尾		東郷	1
0	松田		山口	2
0	橋本		大住	0
1	又吉		永尾	2
21	(1)	PT	(2)	10

立石電機山鹿 24（12−6, 12−5）11 ソニー国分
日本ビクター 25（13−7, 12−8）15 立石電機山鹿

得	〔立石〕		〔ソニー〕	得
0	岡本	GK	阿多石	0
0	川島		古賀	0
0	横田	FP	藤元	3
0	山内		平山	1
2	中山		白石	0
4	武津	（審・内記、大鐘）	楠本	0
1	毛利		林	2
2	野嶋		東郷	0
7	橋本		山口	2
3	斉藤		大住	0
4	比嘉		永尾	3
1	石村		野角	0
24	(5)	PT	(0)	11

得	〔日ビ〕		〔立石〕	得
0	小口	GK	岡本	0
			川島	0
3	武藤	FP	横田	0
8	長田		山内	0
3	枝川		中山	4
3	下條	（審・内記、大鐘）	武津	1
0	平松		毛利	0
4	太田		野嶋	5
1	工藤		橋本	1
1	永岡		斉藤	0
1	山之内		比嘉	4
1	中村		石村	0
25	(5)	PT	(3)	15

予選リーグC組

日立栃木 28（15−4, 13−3）7 ムネカタ
大崎電気 30（16−5, 14−6）11 JUKI
日立栃木 27（12−7, 15−6）13 JUKI
大崎電気 31（16−4, 15−7）11 ムネカタ

JUKI 24（15－9 9－9）18 ムネカタ

大崎電気 29（16－12 13－11）23 日立栃木

得	ムネ		日立	得
0	遠藤	GK	岡本	0
0	我妻	GK	梅津	0
0	伊藤	FP	尾苗	3
2	皆川	FP	神永	4
1	川名	FP	柳田	6
1	太田	FP	山岸	5
2	桜井	FP	吉鶴	0
0	高橋	FP	飯塚	2
1	上遠野	FP	繁在家	0
0	菅野	FP	岡田	2
0	金内	FP	新井	4
0	遠藤	FP	堤	2
7	(1)	PT	(3)	28

（審・杉山・門井）

得	JU		大崎	得
0	大角	GK	佐々木	0
0	上木	GK	宗片	0
1	石塚	FP	森田	2
5	佐藤	FP	藤井	2
2	上田	FP	前川	8
0	石井	FP	梅原	4
1	嶋田	FP	江口	7
0	内山	FP	野田	0
0	樋口	FP	金	3
0	伊原	FP	福井	0
2	熊谷	FP	尹	4
0	武藤	FP	小松沢	0
11	(2)	PT	(2)	30

（審・杉山・門井）

得	JU		日立	得
0	大角	GK	岡本	0
0	上木	GK	梅津	0
2	石塚	FP	尾苗	4
5	佐藤	FP	神永	0
1	上田	FP	柳田	1
0	石井	FP	山岸	2
2	嶋田	FP	吉鶴	2
1	内山	FP	飯塚	6
0	樋口	FP	岡田	6
1	伊原	FP	石毛	1
1	熊谷	FP	新井	3
0	武藤	FP	堤	1
13	(2)	PT	(5)	27

（審・中山・大出）

得	ムネ		大崎	得
0	遠藤	GK	佐々木	0
0	我妻	GK	宗片	0
0	伊藤	FP	森田	6
4	皆川	FP	藤井	4
1	川名	FP	前川	3
1	太田	FP	梅原	3
2	桜井	FP	江口	5
1	高橋	FP	野田	3
1	上遠野	FP	金	5
1	菅野	FP	福井	0
0	金内	FP	尹	2
0	遠藤	FP	小松沢	0
11	(2)	PT	(5)	21

（審・中山・大出）

得	ムネ		JU	得
0	遠藤	GK	大角	0
0	我妻	GK	上木	0
0	伊藤	FP	石塚	4
1	皆川	FP	佐藤	2
2	川名	FP	上田	4
0	太田	FP	石井	0
7	桜井	FP	嶋田	7
3	高橋	FP	内山	0
4	上遠野	FP	樋口	0
1	菅野	FP	伊原	4
0	金内	FP	熊谷	3
0	遠藤	FP	武藤	0
18	(1)	PT	(1)	24

（審・杉山・門井）

得	日立		大崎	得
0	岡本	GK	佐々木	0
0	梅津	GK	宗片	0
8	尾苗	FP	森田	0
0	神永	FP	藤井	3
2	柳田	FP	前川	3
6	山岸	FP	梅原	3
2	吉鶴	FP	江口	5
0	飯塚	FP	野田	2
4	岡田	FP	金	10
0	石毛	FP	福井	0
0	新井	FP	尹	3
1	堤	FP	小松沢	0
23	(2)	PT	(1)	29

（審・杉山・門井）

10～12位決定リーグ

ソニー国分 24（13－12 11－11）23 ジャスコ

〔戦評〕立ち上がり、ソニーは東郷のミドル、藤元のカットインで先行したが、ジャスコも東出のジャンプシュートを中心に速攻をからめて得点をあげ、10分過ぎにはジャスコがリードを奪う。このままジャスコペースかと思われたが、大切なところでミスを出し、11－11の同点で前半を終了。

後半もソニーが先行したが、守りを固めたジャスコがGK小深田の好守から着実に得点を重ね、15分過ぎには21－16とリードを広げる。しかし、ソニーも藤元のミドルを中心にポストプレーで追い上げ、28分にはPTで同点に、終了30秒前には再び藤元がミドルシュートを決め、劇的な幕切れでソニーが勝利をものにした。

得	ジャ		ソニー	得
0	小深田	GK	阿多石	0
0	小林	GK	古賀	0
3	佐々木	FP	藤本	9
5	池田	FP	野角	0
4	石田	FP	平山	3
4	川井	FP	白石	0
1	常石	FP	楠本	0
1	今井	FP	林	2
3	東出	FP	東郷	2
1	稲田	FP	山口	1
0	大塚	FP	大住	2
1	勝島	FP	永尾	5
23	(0)	PT	(6)	24

（審・不明）

ジャスコ 30（20－6 10－4）10 ムネカタ

〔戦評〕立ち上がり、両チーム共に決定的な攻め手を欠き、ミスも手伝って大変スローペースな得点経過をたどっていたが、中盤から相手ミスを速攻に結びつけたジャスコが10－4として前半を終了。

後半に入り、相変らず攻め切れないムネカタに対し、速攻を中心にジャスコが確実に加点、最終的には30－10の大差でタイムアップ。

得	ムネ		ジャ	得
0	遠藤	GK	小深田	0
0	我妻	GK	小林	0
1	伊藤	FP	佐々木	4
1	皆川	FP	池田	4
1	川名	FP	石田	6
1	太田	FP	川井	7
2	桜井	FP	常石	0
0	高橋	FP	今井	2
3	上遠野	FP	東出	3
1	菅野	FP	稲田	1
0	金内	FP	大塚	0
0	遠藤	FP	勝島	3
10	(0)	PT	(3)	30

（審・石井・太利）

ソニー国分 23（10－12 13－3）15 ムネカタ

〔戦評〕前半、ムネカタ、ソニー国分ともミスの目立つ展開であったが、5分過ぎからソニー国分が波に乗り、シュートミス、ディフェンスミスの多いムネカタを多彩な攻撃で13－3と大きく突き放す。

後半、立ち直ったムネカタは速攻を中心に反撃に出るが、あと一歩というところで退場が相つぎ一歩及ばなかった。

得	ムネ		ソニー	得
0	遠藤	GK	阿多石	0
0	我妻	GK	古賀	0
0	伊藤	FP	藤元	7
3	皆川	FP	野角	0
0	川名	FP	平山	3
1	太田	FP	楠本	2
6	桜井	FP	林	2
2	高橋	FP	東郷	5
3	上遠野	FP	山口	1
0	菅野	FP	安山	0
0	金内	FP	大住	2
0	遠藤	FP	永尾	1
15	(3)	PT	(4)	23

（審・土屋・岩本）

7～9位決定リーグ

大崎電気21〔8—7 / 13—9〕16ブラザー工業

〔戦評〕前半、両チーム共決定的攻撃を欠き、一進一退の攻防となった。ブラザーの強引な攻めからのカットインシュートもディフェンスに阻止された。一方大和は、速い展開からのロングシュートに決定力に欠け、残り5分二つの速攻で1点差とした。

後半スタート後、大和はブラザー・荒木にマンツーマンを敷き、速攻を生かして一時は6点差とする。ブラザーも懸命に追い上げるが及ばなかった。

得	〔大和〕		〔ブ工〕	得
0	増見	GK	岡本	0
0	岡田		荒木	3
3	丸田	FP	末永	2
1	鈴木		小栗	1
1	袰川		道上	4
7	上村		松尾	1
3	小池		進藤	0
0	藤本		野田	4
4	高尾		甲斐	1
0	木瀬		高木	0
1	松田		田中	0
1	又吉			
21	(0)	PT	(3)	16

〔審・浅井・山本〕

ブラザー工業24〔13—6 / 11—13〕19JUKI

〔戦評〕立ち上がり、お互いにリズムに乗りきれないかたちで進み、ミスも目立ったが、先取点はブラザーのポストプレーで始まった。

JUKIはなかなかロングシュートが決まらず苦しい展開になった。GKの大角がノーマークシュートを防ぎ健闘したが、ブラザーの巧みなポストプレーにじりじり得点を許し、前半を13—6で終了。

後半に入り、ブラザーにミスが続きJUKIの速攻が決まり出し、4点差まで迫ったが、ブラザー・荒木のロングやカットインプレーに加点され、ふり切られた。

得	〔ブ工〕		〔JU〕	得
0	岡本	GK	大角	0
8	荒木		上木	0
1	末永	FP	石塚	1
1	道上		佐藤	5
7	小栗		上田	4
2	松尾		石井	0
1	進藤		嶋田	3
2	野田		内山	0
2	甲斐		樋口	6
0	高木		伊原	0
0	田中		熊谷	0
			羽田	0
24	(3)	PT	(2)	19

〔審・岡本・清水〕

大和銀行33〔18—9 / 15—12〕21JUKI

〔戦評〕立ち上がり大和は小池らの速攻やPTで5—0とリードする。その後、JUKIは島田のミドルなどで反撃するが、大和は藤本のサイドシュートなどがよく決まり、大和リードで折り返す。

後半開始後も大和は上村、小池らのシュートがよく決まり、JUKIも必死になって反撃するが、相手に退場者が出た時などの大事な所でのミスが目立ち、ミスを確実に速攻に結びつけ得点した大和が33—21で勝利をものにした。

得	〔大和〕		〔JU〕	得
0	増見	GK	大角	0
0	岡田		上木	0
6	丸田	FP	石塚	0
0	鈴木		佐藤	3
4	袰川		上田	3
6	上村		石井	0
7	小林		嶋田	8
5	藤本		内山	1
1	木瀬		樋口	4
1	松田		伊原	1
2	又吉		熊谷	1
1	上野		田中	0
33	(4)	PT	(2)	21

〔審・仲尾・中野〕

4～6位決定リーグ

立石電機山鹿28〔17—11 / 11—15〕26北国銀行

〔戦評〕開始早々、呉のカットイン、ロングで2点を先取した北国が、その後も金のミドルなどでリードを奪うが、中盤以降リズムの出てきた立石が野嶋、武津のロング、ステップで着実に得点をあげ、6点差をつけて前半を終了。

後半、9分過ぎ約10分間得点のなかった立石に対し、北国は5点を連取し、残り2分、1点差まで詰め寄ったが、シュートミスと立石GK岡本の好キーピングで辛くも逃げ切った。

得	〔立石〕		〔北国〕	得
0	岡本	GK	木戸	0
0	川島		岩井	0
0	山内	FP	上田	0
2	中山		林	0
7	武津		丹後	3
0	毛利		松田	1
8	野嶋		北川真	7
0	橋本		矢野	1
0	斉藤		北川静	0
7	比嘉		金	9
1	古田		森	0
3	石村		呉	5
28		PT		26

〔審・不明〕

北国銀行27〔16—9 / 11—12〕21日立栃木

〔戦評〕北国・呉のロングシュートで始まった試合は、その後も北国は呉、金を軸に多彩な攻撃で加点し、一方日立は山岸のロング、新井のポストと反撃するが、ミスが目立ち、前半を16—9で終わる。

後半、立ち上がり日立は、速攻、サイドで4点を連取、3点差と詰め寄るが、再び北国・金のカットインで突き放され、その後も一進一退の攻防が続く。日立も後半足を使って攻めたが、個人技に勝る北国の順当勝ちであった。

得	〔北国〕		〔日立〕	得
0	木戸	GK	岡本	0
0	岩井		梅津	0
2	上田	FP	尾苗	6
2	林		神永	0
1	丹後		柳田	2
2	松田		山岸	4
5	北川		吉鶴	1
1	矢野		飯塚	0
0	北川		繁在家	0
5	金		岡田	2
1	森		石毛	0
7	呉		新井	7
26	(2)	PT	(2)	22

〔審・不明〕

立石電機山鹿28〔14—8 / 14—14〕22日立栃木

〔戦評〕立ち上がりはお互いのプレス・ディフェンスに攻め悩んでいたが、前半10分頃より個人技、シュート力に勝る立石の攻撃がかみ合い出し、着実に得点を重ねて6点をリードして前半を終了した。

後半は点の取り合いとなり、日立栃木も懸命に追い上げたが、6点差を詰めることができなかった。

〔日立〕	得		〔立石〕	得
岡本	0	GK	岡本	1
梅津	0	GK	川島	0
尾苗	4	FP	山内	0
神永	1	FP	中山	5
柳田	4	FP	武津	6
山岸	5	FP	毛利	2
吉鶴	3	FP	野嶋	1
飯塚	1	FP	橋本	3
岡田	3	FP	斉藤	1
石毛	0	FP	比嘉	6
新井	0	FP	石村	3
堤	1	FP	古田	0
(2)	22	PT	(1)	28

（審・田中、牧田）

決勝リーグ

日本ビクター 28（18－10、10－11）21 シャトレーゼ

〔戦評〕立ち上がり、ビクターはリズムに乗ったプレーで得点を加えていたが、シャトレーゼはGKの好守に阻まれ、なかなか点が取れない。5分過ぎ、速攻などにより同点に追いつき、一進一退の攻防が続いたが、15分過ぎからビクターの武藤のロング、枝川の速攻でリズムをつかみ、一方的に前半をリードする。

後半は、15分過ぎにシャトレーゼの李監督が失格するなど、両チームとも荒さが目立つゲーム展開だったが、前半の貯金がものをいい、ビクターが押し切った。

〔シャ〕	得		〔日ビ〕	得
丸山	0	GK	小口	0
工藤	0	GK		
島崎	4	FP	武藤	5
海道	1	FP	長田	4
松沢	2	FP	枝川	6
黒沼	2	FP	下條	5
小林	0	FP	平松	0
小野寺	2	FP	太田	4
江原	2	FP	工藤	0
生方	2	FP	永岡	0
山岸	5	FP	山之内	0
宇宿	1	FP	中村	4
(4)	21	PT	(0)	28

（審・浅井、山本）

大崎電気 31（15－13、16－9）22 シャトレーゼ

〔戦評〕スタートから両チーム早い展開の積極的プレーが見られ、大崎が速攻、ポストで得点をあげればシャトレーゼがロング、サイドで取り返す1点を争う好ゲームとなり前半を終わる。

後半は、立ち上がりから大崎はディフェンスが冴え、シャトレーゼに得点のチャンスを与えず、金のパスカットからの速攻、ステップシュート、尹のロングも連続して決まり、一方的に押しまくった。

〔シャト〕	得		〔大崎〕	得
丸山	0	GK	佐々木	0
千葉	0	GK	宗片	0
小松	0	FP	森田	0
島崎	10	FP	藤井	1
海道	4	FP	前川	5
松沢	1	FP	梅原	4
黒沼	3	FP	江口	4
小林	0	FP	野田	2
江原	0	FP	金	7
生方	2	FP	福井	0
山岸	2	FP	尹	8
小俣	0	FP	小松沢	0
(3)	22	PT	(0)	31

（審・岡本、清水）

大崎電気 30（14－11、16－15）26 日本ビクター

〔戦評〕前半立ち上がり、大崎電気が金のPTで先制した。ビクターは少し固くなったのか攻撃がかみ合わなかったが、10分過ぎから猛攻を見せ、20年には9－7と逆転。実に10分から20分までの10分間に8点を奪った。しかし、そこからまたリズムを乱し、コンスタントに得点をあげる大崎が14－11と3点をリードして前半を終了。

後半に入り、ビクターも懸命に反撃、7分過ぎには16－16と同点に追いついたが、中盤、前川、金らにたて続けに得点されて突き放された。

〔日ビ〕	得		〔大崎〕	得
小口	0	GK	佐々木	0
		GK	宗片	0
武藤	8	FP	森田	0
長田	7	FP	藤井	3
枝川	5	FP	前川	6
下條	2	FP	梅原	1
平松	0	FP	江口	4
太田	2	FP	野田	0
工藤	0	FP	金	12
永岡	0	FP	福井	0
山之内	0	FP	尹	4
中村	2	FP	小松沢	0
(4)	26	PT	(7)	30

（審・岡本、清水）

〔順位〕

①大崎電気
②日本ビクター
③シャトレーゼ
④立石電機山鹿
⑤北国銀行
⑥日立栃木
⑦大和銀行
⑧ブラザー工業
⑨JUKI
⑩ソニー国分
⑪ジャスコ
⑫ムネカタ

〔表彰者〕

▽最優秀監督賞
李　相玉（大崎電気）

▽最優秀選手賞
金　玉花（大崎電気）

▽最優秀新人賞
藤井直美（大崎電気）

▽ベストセブン
GK　小口明子（日本ビクター）
FP　海道元子（シャトレーゼ）
武藤夕起子（日本ビクター）
武津優子（立石電機山鹿）
呉　明林（北国銀行）
山岸和子（日立栃木）
尹　乗順（大崎電気）

日本ーデンマーク親善試合

◆5月2日(火)
国際スポーツフェア
(東京・代々木第1体育館)

デンマーク27 〔17－12, 10－11〕 23日本

国際ハンドボール大会は、デンマークナショナルチームを迎えて代々木第一体育館で第1戦が、5月2日、国際スポーツフェア競技種目のひとつとして行われた。

全日本は、昨年のソウル・オリンピック以来初試合となる。「新生・全日本」はメンバーを公募するなど新しい企画を試み、多くの選手の中から選考してきたが、もちろん中心はソウル組で、国際試合の経験豊富な選手たちが、技倆精神面ともに上回っていたことがこの顔ぶれを見ると理解できる。

それに新進気鋭な選手を加えて内部の競り合いも一段と厳しくなるのではないかと見られる。

デンマークナショナルチームもソウル五輪に出場できず、また、世界Bグループでも予想外の成績で低迷し、バルセロナへの道は険しい状況にある。しかしそこは伝統国、何としても出場しようとする意気込みが、早くも打ち合わせの会議の様子を見ても十分にわかった。

全日本も戦う集団に変身し、大いに燃えている。このシリーズ、どのように展開されるのか興味は尽きない。

第1戦の開始早々、成長著しい首藤のロングで火蓋が切られた。その裏、ハンセンの素早いミドルで簡単に同点。続いてハンセンからヨーエンセンのポストプレーでゲットとさすがにこのあたりヨーロッパナショナルの強さを見せつけられた。

その後、単調な全日本のロングシュートを高いディフェンスに阻まれ、苦しい展開となったが、横パスを多投するデンマークのフォーメーションを玉村、宮下らがよく読み、インターセプトからの速攻に結びつけ、またサイドからのミドルなどで5－4とリード、ソウル五輪組の活躍が目立つ。

さらにデンマークのミスパスを繋ぎ、山村に渡ってまさに天下一品の大きなジャンプシュート。小さな山村選手が一瞬大男に見える実に見事なシュートであった。続いて宮下の強烈なロングシュートがさく裂して、2点差となる。宮下選手もソウル五輪を境に細かい技術をマスターし、以前の打つだけのプレーヤーからリードマンにも変化でき、円熟味を増した。

その間、デンマークもヤコブセンの超ロングシュートや一人フリースローなどを決め、残り3分で9－9の同点に追いつき、死闘を繰り返す。

残り30秒で11－10と日本がリード、さらに宮下から首藤に繋いで12－10と2点をリードして前半を終了。全日本はまとまりのある攻撃で一段と磨きがかかった感がある。

後半に入ると、2m6cmの超ロングシューターのヤコブセンが10分間にポスト、サイド寄りのミドル、さらにロングと一人で4点を連取する大活躍で逆転される。全日本にとってもっとも苦手とする2m台の大砲である。

全日本も宮下のロング、玉村のミドル、さらには山村から玉村に繋ぐきれいなスカイプレーで対抗残り11分30秒で18－20と食下がるが、モンケダル、フェンイエアなど巧みな技を続け、全日本は2点差に詰め寄るのが精一杯だった。

ヨーロッパ勢に勝つためには、一発のロングをいかに封じるかにかかっている。このシリーズはあと3戦、何とか2勝してほしいものである。

攻撃面で目立った玉村、首藤、

首藤の豪快なロングシュート

宮下らは、世界の第一線にも勝るとも劣らぬプレーヤーに成長した。
頑張れ全日本！

◆5月4日(木)
佐川急便杯第1戦
（滋賀・守山市佐川急便体育館）

日本21（10―11 11―8）19デンマーク

前半開始早々、全日本のエース玉村のジャンプシュートで先制。デンマークもパワーあふれるプレーからラスムッセンがゴールを割りまず同点。全日本も伸び〳〵プレーするGK橋本を中心に良く守り、デンマークの再三の攻撃を防ぎ、10―11とデンマークの1点リードで前半を終了。

後半に入り、全日本が首藤の連続得点で1点リードするが、デンマークもアンダーセンのシュートで同点とし、11分にペナルティスローを得るが、GK橋本の好守でリードを許さず、逆に一人退場の全日本が玉村のジャンプシュートを決め再びリード、1点を争う白熱したゲームとなる。

残り10分を切り、17―17の同点。両チームとも必死の攻防をくり返し、残り4分、18―18の同点から全日本が首藤のカットインシュートで1点をリード。GK橋本がデンマークの速いシュートをよく守り、残り1分、また首藤がジャンプシュートを決め、2点差とし、必死に追い上げを図るデンマークの攻撃をしのぎ、全日本が21―19で対デンマーク戦の初勝利をあげた。

◆5月6日(土)
佐川急便杯第2戦
（愛知・名古屋市愛知県体育館）

日本23（12―14 11―9）23デンマーク

通算成績1勝1敗で迎えたこの試合は、立ち上がり1分、全日本10番首藤のカットインシュートでまず先制。対するデンマークもキレラン、モンケダルのミドルなどですぐさま反撃し、リードを奪う。しかし、全日本は5分過ぎから粘り強いディフェンスワークに加え、GK秋吉の再三にわたる好キーピングで約12分間得点を許さない。その間攻撃面でも多彩なプレーが目立ちはじめ、宮下、玉村らで加点し20分には3点差をつけたが、その後ミスを連発し、マッセンらにたてつづけに速攻を決められる。ここで全日本は期待の新星・中山を投入。ベンチの思惑通り、中央から見事なロングシュートを決め応戦し、追いつ追われつの展開となる。前半終盤にデンマークはモンケダルがGKの意表をつくランニングシュート、またイエンセンの速攻で引き離しにかかったが、28分から玉村がステップシュートなどで3連続得点し、必死に追いすがり前半を折り返す。

前半の2点のリードを許した全日本は後半に入り、山村のPT、田口の速攻で追撃するがデンマークもアンダーセン、ヨーエンセンらで一歩も譲らず、白熱したゲーム内容となる。勝負のかかった残り10分、河原が左45度から切れのいいフェイントを決め、その3分後玉村がサイドから飛び込み優位にたったかに見えたが、その後すぐに田口がラフプレーで痛恨の2分間退場。このすきをついて、デンマークはモンケダルが強裂なシュートを放ち1点差。必死に守る全日本であったが、終了30秒前、フェンイエアの同点ゴールを許し、ついに追いつかれる。ノータイム寸前、最後の望みをかけ、渾身の力をこめた河原のロングシュートは無情にもゴールならず、タイムアップの笛が鳴り響いた。

両チーム共によく走り、縦への力強い攻撃にポストを絡めたデンマークと終始スピーディな展開を披露した全日本との闘いは、最後まで見応えのある好ゲームであった。

首藤からポストの荷川取へ

得	〔デンマーク〕	5月2日	〔日本〕	得
0	ホルム		矢内	0
0	イーバセン	GK	橋本	0
2	マッセン		高橋	0
0	アンダーセン		田口	1
2	ニールセン		玉村	7
1	ハムン	FP	宮下	7
1	ラスムッセン		荷川取	0
1	イエンセン	（審・清水 岡本）	酒巻	1
10	ヤコブセン		河原	0
1	ランドハイ		甲斐	0
3	モンケダル		山村	4
3	フェンエア		首藤	3
1	ハンセン		斉藤	0
2	ヨーエンセン		田中	0
0	キレラン		下地	0
			植木	0
27	(2)	PT	(1)	23

得	〔日本〕	5月4日	〔デンマーク〕	得
0	矢内		ホルム	0
0	橋本	GK	イーバセン	0
0	秋吉		マッセン	2
2	田口		アンダーセン	1
4	玉村		ニールセン	2
2	宮下	FP	ハムン	0
2	荷川取		モーテンセン	2
0	酒巻	（審・北井 上久保）	イエンセン	0
0	河原		ヤコブセン	3
0	甲斐		モンケダル	1
6	山村		ハンセン	0
4	首藤		ヨーエンセン	2
1	斉藤		キレラン	2
0	田中		ラスムッセン	4
0	下地			
0	木村			
21		PT		19

得	〔日本〕	5月6日	〔デンマーク〕	得
0	矢内		ホルム	0
0	橋本	GK	イーバセン	0
0	秋吉		マッセン	2
2	田口		アンダーセン	1
8	玉村		ニールセン	1
3	宮下	FP	ハムン	0
1	荷川取		ラスムッセン	0
0	酒巻	（審・森 川島）	イエンセン	1
1	河原		ヤコブセン	0
0	甲斐		モンケダル	5
2	山村		フェンイエア	3
5	首藤		ハンセン	1
0	斉藤		ヨーエンセン	6
1	中山		キレラン	3
0	植木			
0	畑			
23	(3)	PT	(1)	23

得	〔デンマーク〕	5月7日	〔日本〕	得
0	ホルム		矢内	0
0	イーバセン	GK	橋本	0
2	マッセン		田口	1
0	アンダーセン		玉村	4
4	ニールセン		宮下	2
0	ハムン	FP	荷川取	3
0	ラスムッセン		酒巻	0
0	イエンセン	（審・岡本 島田）	河原	0
8	ヤコブセン		甲斐	0
6	モンケダル		山村	3
3	フェンエア		首藤	8
0	ハンセン		斉藤	0
4	ヨーエンセン		中山	0
0	キレラン		畑	0
			木村	0
27	(2)	PT	(2)	21

◆5月7日(日)
佐川急便杯第3戦
（神奈川・横浜市文化体育館）
デンマーク27（13─11／14─10）21日本

　決着をつける第4戦は、満員の横浜文化体育館で行われた。この試合に賭ける両チームの意気込みは大変なもので、試合前から会場は熱気に包まれていた。
　開始早々、デンマークはすばやい動きで連取する。このシリーズでも活躍を続けるヘデラン・モンケダルからマッセンのサイド、続いてモンケダルのクイック、ステップシュートなどで2─0とまずリード。
　全日本も首藤のロングシュートで応戦。デンマークはその後もモンケダルの速攻、フリースローからまたまたモンケダルがサイドにまわって決め、実力一杯を出し切る。
　全日本も名リードマン・田口が横パスを通して、これを玉村がロングシュートで決め、4─7。ようやく調子を取り戻したように見えたが、ミスパスや動きのタイミングが悪く、呼吸が合わない。
　このあたりから大砲・ヤコブセンが登場、デンマークの攻撃に一段と迫力が加わる。残り10分、9─6と最終戦に賭ける気迫が感じられ、見ごたえのある試合展開となる。
　全日本も大砲ヤコブセンを徹底マーク、一応成功したかに見えたが、モンケダルにロングを打たれ守備の崩れが見える。しかし首藤がうまくポストインし、それを荷川取が決めるなど10─14と必死で追う。
　しかし、またまたデンマークの巨人ヤコブセンの度肝を抜く左カットイン寄りのロング、ステップシュートが決まる。日本国内では考えられないゾーンからのロングである。
　その後もニールセンの速攻などで14─8と大きくリードする。全日本は一応フローター気味のゾーンディフェンスは成功しているがあまりにもロングシュートの威力を警戒するため、バックにノーマークができてしまう場面が目立った。
　後半に入って5分、宮下のロングが連発、13─16と3点差に詰め寄り、たちまち射程距離に入る。
　さらに、大砲・ヤコブセンの再三のシュートを完全に押え、それを得意の速攻に結びつけ、8分過ぎ2点差となり、ムードは上々。ここで浮き気味のディフェンスをさらに前に出し、徹底的に押えようとしたが、バックとの連繋が取れず、ノーマークができ惜しい1点を失う。また4点差。
　その後も全日本は絶好調の首藤が45度のロングシュートを立て続けに決めるなどで猛追するが、3点差を維持するのが精一杯だった。もう1点取れたらと勝利を夢見る場面も何度かあったが、一発で簡単に決められ、あるいは速いパスワークからのミドルやポストで加点され、惜しくも最終戦を飾れなかった。
　しかし、ロングシューター組の成長は大きな収穫で、さすがのデンマークもディフェンスシフトを変え、前方に大きく2人出る守備体形に変更せざるをえないまでにその力を十二分に見せつけた点は立派だった。
　ナショナル史上でもロングシューターが3人揃った例はあまりなく、今後に大いなる夢を抱かせたシリーズであった。

日本─デンマーク親善大会を終えて

強化部長　市原則之

　以上4戦を終了し沢山の課題を残すも、結果的にはそれらの課題の一つひとつを克服することがバルセロナへの道を確信し、今後の強化の新たな施策として取り組んで行きたいと考えます。
　なお、ソウルへの出発時点に比較すると、明らかに新生ナショナルチームの力が数段上回っていることは周承の通りであります。

〔課題〕

▽ディフェンス
①GKは全員好守を見せたが、今後は各自が各々の特徴を持ったタイプの違うキーピングと一層のファインプレーができるような集中力の養成。
②受けの守りはいつかはくずれるため、ソウルより継承のアタック・ディフェンスを一層磨き、加えて新たなシフトを考案して取り入れる。
③戦術が指示できるディフェンス・リーダーの育成。

▽オフェンス
①1対1で抜き切る強力なサイドプレーヤーの育成。
②チーム内サウスポー4名以上にする。
③宮下、首藤、玉村に続くロングヒッターの育成。
④戦術が指示できるポストプレーヤーの育成。
⑤戦術が指示でき、シュート力の秀れたセンタープレーヤーの育成。

▽全体
①全体的に選手層が薄いため、ソウルメンバーを押し出す選手を早く育成する。
②弱い個人技を補うため、フォーメーションプレーなど新戦術の確立。
③ジャンプ経験不足を補うため、国内外でのゲーム数の増加。
④120%の力が発揮できる精神力の養成。

競技普及委員会から

■平成元年4月14日付　日本体育協会よりの通知
文部大臣認定「社会体育指導者の知識・技能審査事業」導入実施に伴う既存の公認コーチ・上級コーチ資格移行暫定措置について

平素より本会のスポーツ指導者育成事業に対し、格別のご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、ご承知の通り本会では昭和63年度より国の社会体育指導者の知識・技能審査事業の導入実施に伴い「財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度」に基づくコーチ養成講習会を実施しております。

本会としては、別添の通り「公認スポーツ指導者制度」及び「既存の本会スポーツ指導者資格移行暫定措置」にも明記されていますように、既存の有資格者の新制度への移行優遇措置から、既存のコーチ、上級コーチ有資格者（登録者）については、原則として書類審査のみにより新制度におけるC級・B級・A級コーチへの資格移行を認めることになりました。

つきましては、新制度におけるC級・B級・A級コーチ移行措置は、当該中央競技団体が国の事業認定団体となりませんと実施できませんので、貴協会（連盟）におかれましても、全国各地において当該競技の指導に当たる方々の要望を十分ご理解いただき、早急に事業認定申請準備をされることをお願い申し上げます。

なお、申請に伴う諸手続きの詳細については、本会指導者育成課と十分打合せの上、お取り進めくださるよう併せてお願い申し上げます。

■資料1
既存の本会公認スポーツ指導者資格移行暫定措置

本会公認スポーツ指導者組織の継続的な活動促進と新資格付与制度の効果的受入体制の確保を目的とし、本会が加盟団体との協力により養成・認定した既存の本会公認資格指導者の新制度資格移行暫定措置を次のように定める。

1．スポーツ指導員

本会が主催し、各都道府県体育協会の主管する資格移行講習会（6時間）を受講し、所定の資格移行申請書を各都道府県体育協会を経て、本会へ提出した者は当該事業認定中央競技団体及び本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級スポーツ指導員（文部大臣認定事業における地域スポーツ指導者・初級）へ移行することができる。

◇資格移行講習会科目及び受講時間

(1) スポーツ生理学　2時間
（運動体として身体のしくみとはたらきを中心に）

(2) スポーツ医学　2時間
（現場における救急処置を中心に）

(3) 地域におけるスポーツ行政　2時間
（都道府県・市区町村スポーツ行政と地域スポーツ施策を中心に）

なお、下記条件に該当するもので、本会スポーツ指導者育成専門委員会及び当該事業認定中央競技団体の審査で認められた者に限り、別に定めるB級スポーツ指導員資格移行講習の受講により、B級スポーツ指導員（文部大臣認定事業における地域スポーツ指導者・中級）として認めることができるものとする。

(1) 既存のスポーツ指導員資格取得後10年以上、年齢満35歳以上（受講年の4月1日現在）で、その指導活動実績が特に顕著として、所属都道府県体育協会が推薦した者。

(2) C級スポーツ指導員資格移行後、1年以上を経ている者。

＊体育系大学・短期大学の卒業者については、大学における履修証明書を添付した資格移行申請書を所属都道府県体育協会を経て本会へ提出し、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査で認められた場合、上記資格移行講習会の受講を免除する。

＊本会日本スポーツ少年団認定育成専門委員会については、その認定番号を明記した資格移行申請書の提出により本移行講習会の受講を免除する。

2．コーチ・上級コーチ

1　コーチ

所定の資格移行申請書を当該事業認定中央競技団体を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・初級）へ移行することができる。

なお、その実績が特に顕著として、当該事業認定中央競技団体が推薦し、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査により認められた者に限りB級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・中級）へ移行することができるものとする。

2　上級コーチ

所定の資格移行申請書を当該事業認定中央競技団体を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりB級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・中級）へ移行することができる。

なお、その実績が特に顕著として、当該事業認定中央競技団体が推薦し、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査により認められた者に限りA級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・上級）へ移行することができるものとする。

3．スポーツトレーナー

1　スポーツトレーナー2級

所定の講習会免除請書を当該事業認定中央競技団体を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・初級）の共通科目課程の講習を免除する

ことができる。

なお、特にスポーツ指導員への移行を希望する者で、所定の講習免除申請書を各都道府県体育協会を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級スポーツ指導員（文部大臣認定事業における地域スポーツ指導者・初級）の共通科目課程の講習会及び試験の全てを免除することができる。

2　スポーツトレーナー1級

所定の講習会免除申請書を当該事業認定中央競技団体を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級コーチ（文部大臣認定事業における競技力向上指導者・初級）の共通科目課程の講習及び試験の全てを免除することができる。

なお、特にスポーツ指導員への移行を希望する者で、所定の講習免除申請書を各都道府県体育協会を経て、本会へ提出した者は、本会スポーツ指導者育成専門委員会の審査によりC級及びB級スポーツ指導員（文部大臣認定事業における地域スポーツ指導者初級及び中級）の共通科目課程の講習及び試験の全てを免除することができる。

■資料2　「財団法人日本体育協会　公認スポーツ指導員制度」

〈趣　旨〉

1．国民スポーツ振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立するため、本会は加盟団体と一体となって「(財)日本体育協会公認スポーツ指導員制度」を制定する。

〈目　的〉

2．この制度は次の事項の達成をはかることを目的とする。

(1)各競技別スポーツの普及発展に即応する指導体制を確立すること。

(2)多様なスポーツ活動に対応した指導者を一貫したシステムにより養成し、その資質と指導力の向上をはかること。

(3)指導者の各組織内における位置づけと、役割に応じた資格認定を明確にし、社会的信頼を確保する。

(4)種類別、地域別、競技別に組織的連係をすすめ活動促進をはかること。

〈指導者の種類と役割〉

3．本会が養成し公認するスポーツ指導者の種類と役割は次のとおりとする。

(1)競技別指導者

イ　地域スポーツ指導者

a．C級スポーツ指導員

地域のスポーツクラブやスポーツ教室における競技別の基礎的、導入的な技術指導等にあたる者

b．B級スポーツ指導員

地域のスポーツクラブの育成、運営の指導と、競技別スポーツ技術の専門指導およびスポーツ大会等諸行事の企画、運営等にあたる者。

c．A級スポーツ指導員

地域のスポーツ組織の育成、運営の指導助言と、C級スポーツ指導員の育成・指導等にあたる者。

ロ　商業スポーツ施設における指導者

a．C級（名称調整中）

主として、商業スポーツ施設において職業としてスポーツの指導をする者で、競技別スポーツ技術についての専門的指導と各種事業の企画・運営などにあたる者。

b．B級（名称調整中）

主として、商業スポーツ施設において職業としてスポーツの指導をする者で、競技別スポーツ技術についての専門的指導と、個々の指導対象者の目的に応じたプログラムの企画・立案等にあたる者。

c．A級（名称調整中）

主として、商業スポーツ施設において職業としてスポーツの指導をする者で、競技別スポーツ技術についての専門的指導と施設の経営管理、C級（名称調整中）の育成指導、地域スポーツ組織との連携等にあたる者。

ハ　競技力向上指導者

a．C級コーチ

競技別スポーツ技術についての基礎的、専門的指導と活動組織の育成指導等にあたる者。

b．B級コーチ

競技別スポーツ技術の専門的指導と活動組織の育成・指導および選手の特性に応じた競技力向上の指導等にあたる者。

c．A級コーチ

新たな技術の研究開発と高度な技術指導、諸外国の競技力の分析と新たな戦術、戦法の研究開発、C級コーチの育成・指導等にあたる者。

ニ　マスターコーチ

当該競技において指導者として資質・能力が特に優れ競技別指導者の育成・指導等にあたる者。かつ年齢50歳以上の者

(2)スポーツドクター

スポーツマンの健康管理、スポーツ傷害、スポーツ外傷の診断、治療、予防研究等にあたる者。

(3)トレーナー

スポーツドクターとの協力のもとに選手の健康管理、トレーニングの調整、スポーツ外傷、障害の応急処置、リハビリテーション等にあたる者。

(4)スポーツプログラマー

運動スポーツを行う者に対し、スポーツ相談、スポーツプログラムの提供及び各種トレーニング等の基本的指導にあたる者。

(5)スポーツ少年団指導者

イ　指導員

単位団の育成・指導にあたるとともに、団内における育成母集団をはじめ組織の強化等にあたる者。

ロ　育成指導員

都道府県、市区町村スポーツ少年団組織の育成、スポーツ少年団の普及と活動の促進および指導員の育成指導等にあたる者。

(6)体力テスト員

イ　体力テスト判定員

体力テストの実施と普及および実施結果の判定のあたる者。

ロ　体力テスト指導員

都道府県内における体力テストの普及と企画に参画するとともに、体力テスト判定員の養成にあたる者。

〈指導者の養成〉

4．前項に定める各種スポーツ指導者を養成するため別に定める教科科目に基づき次の講習会を実施する。

(1)C級スポーツ指導員養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「地域スポーツ指導者初級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(2)B級スポーツ指導員養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「地域スポーツ指導者中級養成講習会」

として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(3) A級スポーツ指導員養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「地域スポーツ指導者上級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(4) C級（名称調整中）養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査事業「商業スポーツ施設における指導者・初級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(5) B級（名称調整中）養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査事業「商業スポーツ施設における指導者・中級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(6) A級（名称調整中）養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査事業「商業スポーツ施設における指導者・上級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(7) C級コーチ養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「競技力向上指導者初級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(8) B級コーチ養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「競技力向上指導者中級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(9) A級コーチ養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「競技力向上指導者上級養成講習会」として実施する。

ロ　本会と本会加盟競技団体の共催とする。

(10) スポーツドクター養成講習会

イ本会が実施するが、必要に応じ関係団体を共催に加えることができる。

(11) トレーナー養成講習会

イ本会が実施するが、必要に応じ関係団体を共催に加えることができる。

(12) スポーツプログラマー養成講習会

イ　国の社会体育指導者知識・技能審査認定事業「スポーツプログラマー養成講習会」として実施する。

ロ　本会が実施するが、必要に応じ関係団体を共催に加えることができる。

(13) スポーツ少年団指導員養成講習会

イ　都道府県毎に実施する。

ロ　本会（日本スポーツ少年団）と開催地都道府県体育協会（都道府県スポーツ少年団）との共催で実施する。

(14) スポーツ少年団育成指導員養成講習会

イ　本会（日本スポーツ少年団）が実施する。

(15) 体力テスト判定員養成講習会

イ　本会または、都道府県体育協会が実施する。

(16) 体力テスト指導員養成講習会

イ　本会が実施する。

(17) 前各号の指導者養成にかかる講習会の運営方法、受講資格、教科内容、審査等細目については別に定める。

〈指導者の登録・認定〉

5．前項で養成されたスポーツ指導者の認定は別に定める登録規定により、登録した者を対象とする。

〈スポーツ指導者協議会〉

6．本会は次のスポーツ指導者協議会を設置し、それぞれの役割に応じた活動方策等について協議する。

(1) 競技別スポーツ指導者協議会全国会議

(2) 全国公認スポーツドクター協議会

(3) 日本スポーツ少年団指導者協議会

(4) その他本会が必要と認めたもの

上記各号については、協議会ごとに別に定める。

7．前項、各号の代表をもって「各協議会代表者会議」を構成し、相互の連係を密にして、活動の促進方策等について協議する。

〈移行措置および暫定措置〉

8．この制度施行日以前に公認資格認定を受けたスポーツ指導者のうち、スポーツドクター、スポーツ少年団指導員、育成指導員、体力テスト員については、施行日において自動的にこの制度に移行したものとみなす。

9．この制度施行日以前に公認資格認定を受けたスポーツ指導者のうち、旧スポーツ指導者制度（昭和52年4月1日施行）によるスポーツ指導員、コーチ、上級コーチについては、この制度の競技別指導者への優先的移行措置を講ずる。また旧スポーツ指導者制度施行以前に養成され資格認定を受けたスポーツトレーナー1・2級についても同様とする。ただしこの優先的移行措置は、当該中央競技団体が事業認定団体となった日から原則として5年間に限るものとし、この期間中は本会公認スポーツ指導者資格の保全措置を講ずる。

なお、旧制度より修了し、未登録となっている者については、この制度施行日から原則として1年間に限り保全措置を講じることとし、この期間中登録行為のない場合、その権利は自動的に消滅する。

10．前項およびその他の移行措置、暫定措置については、別に定める。

〈附　則〉

1．この制度改訂は昭和63年8月24日から施行する。

2．この制度改訂は平成元年2月8日から施行する。

第7回ジュニア男子世界選手権 東アジア地区予選大会 報告書

男子監督・早川清孝

大会は中華台北（台湾）の突然の出場辞退などにより、日程が変更され、決定が遅れまして関係者方々には大変御迷惑を御掛け致しましたことを、まずお詫び申し上げます。

本来、対戦が2国間の場合には、原則的にホーム＆アウェイ方式が当然ではありますが、経費あるいは、期間的なことなどから、韓国においての2回戦方式で東アジア代表権を決定することで話がまとまり、日本チームといたしましては、厳しい条件（敵国）での対戦に多少の不安を感じつつも韓国に乗り込むこととなりました。

御承知の如く昨年のオリンピックでは、女子は金メダル、男子におきましても銀メダルと韓国ハンドボール界の活躍は、我々同一アジア民族にとりましては夢と希望を与えてくれましたが、同時に我々日本の技術や戦術がはたしてどの程度通用するものか不安と期待の交錯する中での海外遠征で初体験の選手も多く、精神的にはまだまだ未熟であり、しかも心と身体の不安定さは隠しきれず、いかに日頃の実力を発揮することができるかが、今大会の最大目標であり、勝敗もさることながら精神的・肉体的（技術・能力）な面で国際的に通用する選手の育成がジュニア選手にとりましては、重要であると考えます。

残念ながら韓国に後れをとることになりましたが、随所に韓国を凌ぐほどの多彩な展開、意欲的な姿勢は高く評価されるものでありました。しかも選手各々の技術（能力）が十分通用することを肌で感じとることの貴重な体験は、今後に大なる期待を抱かせるに十分な成果であったといえます。

これも一重に、関係各位様の御理解と御協力の賜ものと感謝申し上げます。

今後におきましても相変わらず、ジュニア・ナショナルチームのため、また、日本ハンドボール界発展のため、宜しく御支援・御協力のほどお願い申し上げます。

▽3月26日（第1戦）
韓国 41 （21－9／20－14） 23 日本

▽3月28日（第2戦）
韓国 34 （16－13／18－10） 23 日本

コーチ・東根明人

第1戦については、立ち上がり両チームとも硬さが見られた。特に日本は、広いホール、ボールの感じがつかめない様子で、信じられないイージーミスを続出した。にもかかわらず15分間は、2点差で離されないでいた。

これは、ディフェンスの頑張りとGK高木の好守があげられる。試合前はどうなるのかと不安の多い選手たちも、この辺で落ち着いたのだが、逆に安易なプレーも目立ちはじめてきた。韓国の趙致孝が負傷退場の時間が、日本にはマイナスだったようだ。日本が単発シュートや動きの少ないプレーをはじめると、韓国はすかさず速攻を連発した。ナショナルチームの一員でもある沈載弘、林珍錫を中心に、さらに朴賢龍には右サイドから速攻・サイドシュートと、第1戦では最高の9点を取られる結果となった。

日本選手は、中心選手として活躍を期待していた中山、長嶺、大村の不調が惜しまれる一戦であった。特に中山の前半は気持ちが強過ぎたのか全く脚が動かず、途中で交代してしまった。ただし、後半は開き直り、彼本来の強裂なシュートを連続した。それだけに、前半が大いに悔まれた一戦であった。

結果は、23－41と予想以上の失点であった。韓国チームも約1週間の合同練習しかしておらず、日本と同じ条件である。ということは、再三言われている一貫教育の効果といえるのではないか。個人技術が徹底されているため、合わせる時間さえあれば、チームとしての力量も計算できるように仕上がると思われる。

第2戦は、第1戦の反省をよく生かした試合であった。逆速攻のもどり、単発シュートをしないなどである。大量失点につながるプレーを極力さけるという反省がなされた。

試合は、立ち上がりから一進一退が続いた。10分6－7、20分10－10と全く互角である。しかし、ここで日本は中山が相手選手とぶつかり負傷してしまい、残り5分の時点で11－14と3点差をつけられた。しかし、日本にもチャンスはすぐに来た。残り3分で韓国が一人退場。ところが、ここでも日本はミスをし、逆に1点取られるという流れに乗り切れない状態で、結局前半は13－16で終わる。しかし、前日とは比べようのない健闘であった。特に林、大村、源内の活躍はみごとであった。早いボール回しからの展開や、サイドから切り込んでくるプレーは、韓国を圧倒していた。

後半は、韓国もハーフで気持ちを切り替えた様子でスタートとなった。案の定、この試合のポイントが即にやってきた。立ち上がり10分が1－7と合計すると14－23の9点差になり一気に勝負をつけられた様子であった。そして、中盤では16点差まで行き、このままズルズル離されるかと思われた。しかし、日本は残り10分間を6－3で勝つなど、最後まであきらめずに粘ってくれた。結局23－34に終ったが、かなり成果、収穫のある試合であったが、技術的な差が歴然としている試合でもあった。

全日本教職員選手権大会における研究発表会について

全日本教職員連盟

教職員大会に参加されている方々はご存知のことと思いますが、大会と並行して開催されています研究発表会も今年で13回目を迎えることになりました。発表内容は紀要にして毎年発行され今年13集を迎えることになりました。10回目発行の折には記念として10年間の紀要を合併本として発行されております。発表内容は学校体育ハンドボール、ミニハンドボール、競技スポーツハンドボール、歴史、ミニハンドボール、ルール、ゲーム分析法など多岐にわたっており、発表題数も100を超えております。ハンドボールだけの研究紀要も日本ではこれだけのものであり教職員連盟の独自性を表わすものとなっております。大会に参加される選手のみなさんは試合を第一義の楽しみとしておられるわけですが、日頃は、指導者としてハンドボールに携わっておられる方ばかりです。

「研究」という名前にとらわれると堅苦しくなりがちですが、ハンドボールを指導している現場の先生方が身近な話題から発表されるわけですからハンドボール界にとって非常に意義深い催しであると思います。

参加の呼びかけ

発表会は大会の前日の代表者会議の席上で行われます。是非ともお誘い合わせの上、会場に足をお運びいただき発表を聞いていただきたいと思います。

発表題目の通知

発表者を現在募集している段階ですので、発表題目の通知は、7月中旬が大会に参加されるチーム責任者にされます。

発表者の募集

発表者は大会に参加されるチーム責任者、及び教職員連盟の役員・理事を通して行われております。発表者は大会に参加される者だけでなく、ハンドボールに関心のある広い層から受け付けております。発表の申し込みは、大会参加者はチーム責任者を通して大会参加申し込みと同時にすることになっております。それ以外の方は教職員連盟の役員・理事を通して、下記へ御申し込み下さい。

▽申し込み締切り　7月5日(土)

〒335　埼玉県戸田市新曽1093

埼玉県立戸田高校内

全日本教職員ハンドボール連盟事務局

電話0484―42―4963

▽発表内容

1　学校体育に関するもの

指導方法、評価、スキルテスト、ミニハンドボール等

2　競技ハンドボールに関するもの

技術、戦術、体力、ゲーム分析、指導方法等

3　ハンドボールの歴史、ルール・審判法等

4　評論、その他

▽発表日時

平成元年8月8日(火)

▽発表場所

福岡県　小倉南市民センター

▽発表時間　一人約10分

▽発表資料　150部

未来をみつめる健康テクノ
asics
走る、跳ぶ、投げる。
制空権を得るためのスカイハンド®。
より高い跳躍と より長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、
勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに——。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。
アシックスよりおくります。
SKYHAND®
ASICS Handball Wear
asics® TIGER®
ASICS Handball Shoes
株式会社アシックス
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624- 221(大代表) ■®は㈱アシックスの登録商標です。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二八六号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
平成一年五月二十六日 印刷
平成一年六月一日 発行
東京都渋谷区 一一一 編集兼
電話 代表 三六一
振替 東京 六一五八三四八番
発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料 二千二百円)